授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	解剖生理学Ⅰ	担当講師	濟　昭道
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい

人間の身体の基本構造とその成り立ちを理解するために解剖生理学のための基礎知識を学ぶ。そして、生命活動を営むために重要な役割を果たしている細胞が正常に機能するためには内部環境の恒常性が維持されていなければならいため、恒常性（ホメオスタシス）を維持するためのはたらきを理解するための基礎知識を学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 人体の構造と機能の基礎知識が理解できる 解剖生理学テキスト 第 1 章	1. 解剖生理学への導入	1)形からみた人体 2)素材からみた人体 3)機能から見た人体 生命維持システム 運動調節システム	講義
2	2. 生命の維持機能について理解できる 第 1 章Ｃ②、9 章Ｄ 看護形態機能学	2. 内部環境の恒常性 3.生命維持と生活行動	1）体液の分類と量 2）体液の電解質 3）血漿の PH 4）動脈血酸素分圧 5）血漿の糖分 6)体温 1）生命維持と環境	講義
12	3. 生体内の物質の流通機構が理解できる 解剖生理学テキスト 第 3 章血液のはたらき 4 章循環器系	3. 恒常性維持のための物質の流通	1）流通の媒体 (1)血液の恒常性の維持 (2)物質の運搬 (3)侵入物対する防衛 (4)血液凝固 2)流通路 (1)血管・リンパ管 (2)脾臓 3)流通の原動力	講義
12	調節機構について理解できる 第 6 章内分泌系による調節 ホルモン分泌の調節 第 8 章　神経系 (感覚器系含む)	4. 恒常性維持のための調節機構	1）神経性調節 (1)受容器 (2)中枢神経 (3)末梢神経 (4)情報伝達 2)液性調節 (1)ホルモンの作用機序 (2)ホルモン分泌の調節 (3)恒常性維持のためのホルモンのはたらき	講義

2	試験		3)ストレスと恒常性の維持	
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①　医学書院 菱沼典子著　第４版　看護形態機能学　生活行動からみるからだ　日本看護協会出版会			
参考文献	系統看護学講座　専門分野　成人看護学③ 循環器　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学④ 血液・造血器　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑥ 内分泌・代謝　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑦ 脳・中枢神経　医学書院 小寺豊彦著　楽しく学ぶ　看護につながる解剖生理学改訂版　照林社			
評価方法	筆記試験			

授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	解剖生理学Ⅱ	担当講師	濟　昭道　富　勝治
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい
　日常生活の中で生きていくために不可欠な営みに関する身体の仕組みと働きとして、「食べる」行動の中心となる消化器系のしくみと働きについて学ぶ。また、生きていくために行われている体内のエネルギー生産「息をする」について呼吸器系のしくみと働きについて学ぶ。
そして、身体にとって不要なものを捨てる「出す」について、呼吸器系・腎泌尿器系・消化器系のしくみと働きについて学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
10	生活行動「食べる」に必要となる身体の構造と機能が理解できる 解剖生理学テキスト 第 2 章消化器系 A・B・C 第9章C代謝と運動	1. 食べる	1） 食欲 (1)口・咽頭・食道の構造と機能 2)食行動 3)咀嚼し味わう 4)飲み込む（嚥下） 5）消化吸収 (1)消化管の構造と機能 (2)代謝機能 6）食行動について	講義
8	「息をする」に必要な身体の構造と機能が理解できる 第 3 章呼吸器系 A・B	2. 息をする	1） 息を吸う・息を吐く (1)呼吸器系の構造と機能 2） ガス交換 (1) 外呼吸と内呼吸 (2) 血液のよるガスの運搬	講義
10	生活行動「トイレにいく」に必要な身体の構造と機能が理解できる 第 5 章腎・泌尿器系 第 2 章消化器系 A・B	3. トイレに行く	1）排尿 (1)腎臓の構造と機能 2)排便 (2)消化器系の構造と機能 3）排泄をするについて	講義
2	試験			試験

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①　医学書院 菱沼典子著　第 4 版　看護形態機能学　生活行動からみるからだ　日本看護協会出版会
参考文献	系統看護学講座　専門分野　成人看護学② 呼吸器　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学③ 循環器　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑤ 消化器　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑧　腎・泌尿器　医学書院 小寺豊彦著　楽しく学ぶ！看護につながる解剖生理　改訂版　照林社
評価方法	筆記試験

授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	解剖生理学Ⅲ	担当講師	濟　昭道　中島　雅彦
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい
日常生活での何気ない動作についても、一つひとつ見ていくと、たくさんの骨、関節、筋肉が連動している。本科目では随意的な行動「動く」について、運動器系のしくみと働きについて学ぶ。

また、新たな生命を受胎して出産するまでの体内における準備について生殖器系のしくみと働きについて学ぶ。そして身体の成長と老化のメカニズムについて学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
16	生活行動「動く」に必要な身体の構造と機能が理解できる 解剖生理学テキスト 第 7 章運動器系 第8章Ｅ運動ニューロン	1. 動く	1）姿勢 2)神経から筋への指令と筋収縮 3)意図的でない運動－反射 4)意図的な運動－随意運動 5）骨格・骨格筋・関節 6）日常生活での基本的な動き	講義
6	「こどもを生む」に必要な身体の構造と機能が理解できる 第 10 章生殖器	2. こどもを生む	1）男と女 2）遺伝子組み換え 3)性交と受精 4)赤ちゃん 5）生殖を支えるホルモン 6）出産	講義
6	成長と老化のしくみについて理解できる	3. 成長と老化	1）小児の成長 2）老化	講義
2	試験			試験

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①　医学書院 菱沼典子著　第 4 版　看護形態機能学　生活行動からみるからだ　日本看護協会出版会
参考文献	系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑩　運動器　　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑧　腎・泌尿器　　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑧　女性生殖器　　医学書院 病気の地図帳　講談社 小寺豊彦著　楽しく学ぶ　看護につながる解剖生理学　照林社
評価方法	筆記試験

授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	解剖生理学Ⅳ	担当講師	濟　　昭道
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい

日常生活は、朝起きて夜に眠るというリズムの繰り返しである。そして、活動した 1 日の最後にはお風呂に入る。本科目では、清潔・休息行動である「お風呂に入る」と、生活リズムの安定に欠かせない休息行動「眠る」について、神経系のしくみと働きについて学ぶ。同時に、汚れや温度を感じる皮膚や眼、耳（感覚器系）のしくみと働きと、感覚器から受け取った情報を処理している脳のしくみと働きについても学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
14	1. 生活行動「話す・聞く」「におう・味わう」「触れる・痛む」「眠る」に必要な身体の構造と機能について理解できる 解剖生理テキスト 第 8 章 脳神経・感覚器系 感覚器系の解剖生理 脳の解剖生理	1.　話す 2.　聞く 3. 眠る 4. におう・味わう 5. 痛む	1)　声を出す (1) 呼吸器系：喉頭の声帯 (2) 神経系：運動性言語野 2)　聞く (1) 感覚器：耳 (2) 神経系：内耳神経・聴覚野 感覚性言語野 3)　眠る (1) 神経系：脳波・睡眠段階 生体リズム (2) 内分泌系：ホルモン 4)におう・味わう (1)感覚器：味覚・嗅覚 1)痛む (1)感覚器：痛覚	講義 講義
14	2. 生活行動「お風呂に入る」に必要な身体の構造と機能について理解できる 第 9 章皮膚の構造と機能、生体防御機能、体温	5. お風呂に入る	1)　垢を落とす 2)　皮膚と付属物 3)　皮膚と粘膜 4)　温まる	講義
2	試験			

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①　医学書院 菱沼典子著　第 4 版　看護形態機能学　生活行動からみるからだ　日本看護協会出版会
参考文献	系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑦ 脳・神経　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑪アレルギー膠原病感染症　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑫皮膚　医学書院 病気の地図帳　講談社 小寺豊彦著　楽しく学ぶ　看護につながる解剖生理　改訂版　照林社
評価方法	筆記試験

授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	生化学	担当講師	遠山　由美 田畑　裕幸 坂本　真由美
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間

科目設定のねらい

身体がどのような成分から成り立ち、どのように作られ、調整されて健康を維持しているのかを、物質代謝・エネルギー代謝を通して理解することで、細胞内での物質の変化だけではなく、生命活動に必要な栄養素とその吸収臓器あるいは臓器間の関係、病態と代謝のつながりを学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
4	1. 生命維持に必要な栄養素の構造と性質が理解できる	1) 生命維持に必要な栄養素 ①細胞 ②糖質 ③脂質 ④ｱﾐﾉ酸と蛋白質 ⑤核酸とﾇｸﾚｵﾁﾄﾞ ⑥ﾋﾞﾀﾐﾝ	(1) 生命と細胞 (2) 糖とは何か (3) 糖の構造と性質と種類 (4) 脂質の構造と性質と主類 (5) 蛋白質の構造と性質と種類 (6) 核酸とﾇｸﾚｵﾁﾄﾞの構造と性質 (7) ﾋﾞﾀﾐﾝの分類と機能	講義
2	2. 身体の中の代謝の流れを作る酵素の働きが理解できる	1) 酵素の役割 2) 酵素の分類	(1) 代謝の流れを作る酵素の役割 (2) 酵素の性質 (3) 酵素の分類 (4) 臨床診断に用いられる酵素	講義
2	3. 生物体における様々な代謝が理解できる。	1) 糖質代謝 2) 脂質代謝 3) 蛋白質とｱﾐﾉ酸の代謝 4) 核酸・ﾇｸﾚｵﾁﾄﾞ代謝	(1) 代謝・異化・同化 (2) 糖質の種類と消化・吸収 (3) 解糖のしくみ (4) 糖新生の流れ (5) 血糖の調節 (1) 脂質の種類と消化・吸収 (2) 脂肪酸の分解 (3) ｹﾄﾝ体の代謝 (4) ｺﾚｽﾃﾛｰﾙの代謝 (5) 脂質異常 (1) 蛋白質の消化と吸収 (2) ｱﾐﾉ酸の代謝 (3) ﾍﾑの生合成とﾋﾞﾘﾙﾋﾞﾝ代謝 (1) 核酸・ﾇｸﾚｵﾁﾄﾞの基本構造と役割 (2) 核酸・ﾇｸﾚｵﾁﾄﾞ代謝の役割と概要	講義
2	4. 臓器間の代謝のつながりが理解できる。	1) 摂食時の代謝 2) 絶食時の代謝	(1) 摂食時における臓器間の代謝のつながり (2) 絶食時における臓器間の代謝のつながり	講義

2	5. 生体内の遺伝情報とその変化が身体に及ぼす影響が理解できる。	1) 遺伝情報（遺伝情報を担う物質） 2) 病気と遺伝子	(1) 遺伝情報の保存と発見 (2) 遺伝病 (3) DNA の変異と先天性代謝異常	講義
2	6.看護の対象の生活と代謝の関係が理解できる	1) 生活と代謝	(1) 看護形態機能学：身体の調子を整え、生命を維持する	講義
1	試験			
テキスト	ナーシング・グラフィカ②　臨床生化学　人体の構造と機能　メディカ出版			
参考文献	系統看護学講座　専門基礎　病態生理学　疾病の成り立ちと回復の促進②　医学書院 系統看護学講座　専門基礎　生化学　人体の構造と機能②　医学書院 系統看護学講座　専門基礎　薬理学　疾病の成り立ちと回復の促進③　医学書院 系統看護学講座　専門基礎　栄養学　人体の構造と機能③　医学書院 菱沼典子著　第４版　看護形態機能学　生活行動からみるからだ　日本看護協会出版会			
評価方法	筆記試験			

授業概要

分　野	専門基礎分野	科目名	治療論	担当講師	西田　勝浩　富 勝治 倉橋　卓男　小山　司
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間

科目設定のねらい

本科目は、様々な疾病の治療に共通する治療技術を学び、以後に続く「疾病と治療論」の理解を深め、救急救命時の看護、周手術期の看護、放射線療法時の看護に発展することをねらう。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 外科的治療の特色と変遷が理解できる	1) 外科的治療の特色と変遷	(1) 外科的治療の特色 (2) 近代の外科的治療の変遷 （低侵襲治療・臓器移植） (3) 外科的治療と看護の特徴 (4) 内視鏡的検査と治療	講義
	2. 手術療法の適応理解できる	1) 手術適応と手術療法の分類	(1) 手術療法の適応と分類 (2) 手術療法の分類 (3) 外傷治療と創傷管理	講義
2	3. 外科的治療と手術療法における身体侵襲が理解できる	1) 手術侵襲と生体の反応	(1) 手術侵襲と生体反応 (2) 生体調節機構	講義
	4. 手術療法に伴う合併症とその対応が理解できる	1) 起こしやすい術後合併症と対応	(1) 術後合併症の発生機序 (2) 起こしやすい術後合併症 (3) 術後合併症の予防と対応	講義
2	5. 麻酔の種類と生体の反応が理解できる	1) 麻酔種類と生体反応	(1) 麻酔の種類（全身麻酔と局所麻酔）と生体反応	講義
	6. 麻酔前･中･後の管理が理解できる	1) 術前・術後・術後の管理 2) 麻酔の合併症 3) 麻酔法を支える管理	(1) 術前管理 (2) 術中管理 (3) 術後管理 (1) 麻酔中・麻酔後の合併症 (2) 呼吸管理と合併症 (1) 体液管理 (2) 栄養管理 (3) 輸液療法・輸血療法	
4	7. 救急処置法の原則と実際が理解できる	1) 救急処置の範囲 2) 救急処置の対象 3) 救急処置の原則	(1) 外科的一時処置 (2) BLS と ACLS (3) 救急処置の対象 ・心肺機能停止（CPA） ・外傷とｼｮｯｸ （緊急を要する外傷性疾患・ｼｮｯｸの分類と主な原因）	講義

			(4) 救急処置の実際 ・気道の確保 ・人工呼吸 ・胸骨圧迫 ・直流除細動器 ・自動体外式除細動器（AED） ・止血法 ・体温管理 ・包帯法 ・応急処置 ・輸血	講義 （演習）
4	9. 放射線による診断と治療の原理と特徴が理解できる	1)画像診断の種類と特徴 2)画像診断における看護の役割	(1) 画像診断の種類と特徴 （一般撮影・CT・MRI・核医学検査・血管造影・IVR） (2) 正常Ｘ線像と代表的疾患のＸ線像 (1) 放射線による障害と防護 (2) 画像診断におけるﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	講義 視聴覚教材
	10.　放射線治療時の有害反応が理解できる	1)放射線治療の特徴と目的	(1) 放射線治療の特徴 (2) 放射線治療の目的 (3) 放射線治療の適応 (4) 放射線治療の有害反応	講義
1	試験			筆記試験

テキスト	系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学　医学書院
参考文献	系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進①病理学　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑤消化器　医学書院 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ　医学書院 系統看護学講座　別巻　救急看護学　医学書院 任　和子編集　根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　第２版　医学書院
評価方法	筆記試験

授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	病理学	担当講師	濟　昭道
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間

科目設定のねらい

本科目は人の病気の成り立ちと回復過程について学ぶ入口である。適切な看護を行うためには、疾患に対する知識を持たなければならない。まず、細胞レベルで病的状態をよく理解すること、そして検査の方法や検査結果の読みとり方を知り、診断がどのようにつけられるのか、さまざまな治療法をどのように選択するのか。疾患毎に、あるいは同じ疾患でも治療の目的や方法は異なる場合が多い。治療に伴う看護はどうすればよいかを考える手立てとしてはこのようなことを理解することが重要である。さらに、病気の発生傾向や発生要因を知ることで予防的な看護につながる。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
14	1. 正常と病気の状態が理解できる	1) 疾病の原因と生体の回復力	(1) 生理と病態生理	講義
		2) 正常性をゆがめる因子(病因)	(1)疾病を引き起こす要因 (2) 疾病を引き起こす生活習慣 (3) 公害病、医原病、職業病	
		3) 回復に影響する因子	(1) 正常への回復に影響する要因と回復過程	
		4) 疾病の診断と治療	(1) 病気と病態生理 (2) 症状・徴候・症候群 (3) 器質的変化と機能的変化 (4) 正常から変化を確認する診断過程 (5) 全身状態評価のための一般検査･特殊検査 (6) 疾病の治療と選択 (7) 回復力と後遺症 (8) 予後と転帰	
	2. 局所性の循環障害と全身性の循環障害が理解できる	1) 局所性、 全身性、ﾘﾝﾊﾟの循環障害	(1) 充血とうっ血と虚血 (2) 血栓症と塞栓症 (3) 出血と梗塞 (4) ショックと DIC (5) 浮腫(水腫)と浸出液・濾出液	講義
	3. 組織・細胞の障害が理解できる	1) 細胞の損傷と適応	(1) 変性・萎縮・肥大・過形成	
		2) 細胞の死	(1)壊死（ﾈｸﾛｰｼｽ）・ｱﾎﾟﾄｰｼｽ	講義
		3) 臓器の変形・圧迫	(1)圧排・ﾍﾙﾆｱ	
	4. 炎症と免疫が理解できる	1) 炎症	(1) 炎症の 5 徴候と原因と経過	
		2) 創傷治癒	(1)組織が損傷してから修復まで (2) 組織の再生と一次治癒・二次治癒	講義
		3) 炎症性疾患	(1) 炎症の治療 (2) 化膿性炎、出血性炎、壊疽性炎、増殖性炎、肉芽腫性炎 (3) 易感染症と日和見感染症	
		4) 免疫	(1)先天性免疫不全症と後天性免疫不全症･ｴｲｽﾞ (2) 移植と免疫	

	5. 腫瘍の発生病理が理解できる	1) 腫瘍	(1) 腫瘍とは何か (2) 腫瘍の悪性度と組織発生による分類 (3) 前がん病変と境界病変 (4) 腫瘍の発生機序 (5) 腫瘍の発生原因	講義
	6. 悪性腫瘍の転移、進行、診断、治療が理解できる	1) 腫瘍の広がりとがんの進行度 2) 腫瘍が宿主に及ぼす影響 3) 腫瘍の診断と治療	(1) リンパ行性転移・血行性転移・播種 (2) TNN 分類、病期分類 (1) 原発部位周囲への圧迫 (2) 全身への影響 (1) 腫瘍の診断(腫瘍マーカー) (2) 外科手術・放射線照射・化学療法・ホルモン療法・新しいがん治療 (3) 腫瘍の統計	講義
	7. 先天異常・遺伝子異常、診断、治療が理解できる	1) 先天異常、遺伝性疾患	(1) 遺伝子異常症 (2) 染色体異常症 (3) 出生前感染症・薬剤・ｱﾙｺｰﾙ・放射線による胎児の障害 (4) 診断方法：出生前診断、新生児ﾏｽｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ、DNA 診断法 (5) 治療：遺伝子治療	講義
	8. 老化と死が理解できる	1) 細胞の老化 2) 個体の死	(1) 細胞・組織・個体の老化 (1) 死の 3 徴候・死亡判定・脳死・尊厳死	講義
1	試験			筆記試験

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　病理学　疾病の成り立ちと回復の促進①　医学書院
参考文献	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①　医学書院 系統看護学講座　専門基礎分野　病態生理学　疾病の成り立ちと回復の促進②　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　呼吸器　成人看護学②　医学書院
評価方法	筆記試験

授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	疾病と治療Ⅰ	担当講師	富　勝治 黒田　達実 濟 昭道
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい

「疾病と治療」を学ぶ入り口として呼吸器疾患をとりあげる。呼吸器疾患は身近な「かぜ」から、重篤でより深刻な悪性腫瘍や慢性疾患など非常に多彩な病理状態を示す。呼吸をすることはすなわち生きていることである。呼吸が苦しいことがどのような病態生理から起こっているかよく理解し、症状・検査・治療に関する知識を持ち、看護実践に活用できることをねらう。

血液が循環することで生命が保たれている。心臓や血管の疾患、あるいは、血液そのものや造血器の疾患、老廃物を排泄する腎臓・泌尿器系の疾患が身体にどのように影響するのか、診察から診断のプロセスがどのように進められ、どのように治療がおこなわれるのか。症状出現から疾病の回復まで、看護が連続して行われるために必要な循環器系・血液・造血器系・腎・泌尿器系にかかわる疾病と治療について学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
8	1. 呼吸器系の疾病と治療が理解できる	1) 呼吸器系疾患の症状と病態生理 2) 呼吸器の診察・検査 3) 呼吸器系疾患の診断 4) 呼吸器系の疾患の病態・治療と管理	(1)主な症状：咳嗽・喀痰・ﾁｱﾉｰｾﾞ・呼吸困難・胸痛・吐血・喀血 (1)症状があるときの問診と身体所見と検査の種類 (1)検査結果と診断をつけるプロセス (1)主な呼吸器系疾患：炎症性疾患（気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎）・気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患（COPD）・肺循環障害（肺高血圧、肺塞栓症）・肺結核・気胸・腫瘍（肺癌、中皮腫）	講義
8	1. 循環器系の疾病と治療が理解できる	症状と病態生理 2) 診察と診断の流れ 3) 循環器疾患の治療 4) 疾患別病態生理と治療	(1) 胸痛・動機・呼吸困難・浮腫・チアノーゼ・めまい・失神・ショック (1) 問診、診察、検査から診断までのプロセス (2) 検査の種類と方法 (1) 治療方法 (1) 虚血性心疾患 (2) 心筋症 (3) 心不全 (4) 不整脈 (5) 血管系の疾患 (6) 血圧異常	
6	2. 血液・造血器系の疾病と治療が理解できる	1) 症状と病態生理 2) 診察と診断の流れ 3) 疾患別病態生理と治療	(1) 貧血、発熱、リンパ節腫脹・脾腫、出血傾向、凝固・線溶系の異常 (1) 問診、診察、検査から診断までのプロセス (2) 検査の種類と方法 (1) 白血球減少症 (2) 出血性疾患 (3) 造血器腫瘍	講義
6	3. 腎・泌尿器系の疾	1) 症状と病態生理	(1) 尿の異常、蓄尿障害、排尿障害、浮腫、水と電解質異常、高血圧、うっ血性心不全、低タ	講義

2	病と治療が理解できる 試験	2) 診察と診断の流れ 3) 疾患別病態生理と治療	ンパク血症、尿毒症、疝痛、し腫脹・腫瘤、発熱 (1)問診、診察、検査から診断までのプロセス (2)検査の種類と方法 (1)腎不全(急性腎不全・慢性腎不全) (2)腎・尿路系の悪性腫瘍(膀胱腫瘍・前立腺がん) (3)腎・尿路の通過障害(尿路結石・前立腺肥大) (4)炎症性疾患	筆記試験

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　病態生理学　疾病の成り立ちと回復の促進②　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院 系統看護学講座　専門分野　　呼吸器　成人看護学②　医学書院 系統看護学講座　専門基礎分野　病態生理学　疾病の成り立ちと回復の促進２　医学書院 系統看護学講座　専門分野　　循環器　成人看護学③　医学書院 系統看護学講座　専門分野　　血液・造血器　成人看護学④　医学書院 系統看護学講座　専門分野　　腎・泌尿器　成人看護学⑧　医学書院
参考文献	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①　医学書院 系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①　医学書院 からだの地図帳　講談社 病気の地図帳　講談社
評価方法	筆記試験

授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	疾病と治療Ⅱ	担当講師	杉田裕・渡辺聡 黒田達実
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい

人体は食物摂取・消化吸収・栄養素の流通と生体物質の化学変化と物質代謝・エネルギー代謝によって恒常性が維持されている。本科目では栄養の摂取と代謝に関わる消化器系、食物を口から摂取する歯・口腔、恒常性を維持する内分泌・代謝系の疾病を生じたら身体にどのような影響があるのか、症状出現から疾病の回復まで看護が連続して行われるために必要な食物摂取・消化・吸収・内分泌・代謝にかかわる疾病と治療について学ぶものとする。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
16	1. 消化器系の疾病と治療が理解できる	1) 症状と病態生理	(1) 嚥下困難、噯気･胸やけ、嘔気･嘔吐、腹痛、吐血･下血、下痢、便秘、腹部膨満、食欲不振と体重減少、腹水、黄疸、肝性昏睡	講義
		2) 診察と診断の流れ	(1) 問診、診察、検査から診断までのプロセス (2) 検査の種類と方法	
		3) 消化器疾患の治療	(1) 治療方法	
		4) 疾患別病態生理と治療	(1) 食道の疾患（ｱｶﾗｼｱ･食道がん） (2) 炎症性疾患(上部消化管・下部消化管) (3) 潰瘍性疾患(上部消化管・下部消化管) (4) 消化管の腫瘍(上部消化管・下部消化管) (5) 肝臓･胆嚢･膵臓の疾患 (6) 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患	
4	2. 歯科・口腔の疾病と治療が理解できる	1) 疾患別病態生理と治療	(1) 歯の異常と疾患(齲歯)と歯周組織の疾患(辺縁性歯周炎)と齲歯に継発する疾患(顎骨の炎症) (2) アフタおよびアフタ類似性疾患と潰瘍性疾患 (3) 口腔領域の腫瘍(良性･悪性) (4) 炎症性疾患(咽頭炎、扁桃炎)	講義
8	3. 内分泌・代謝の疾病と治療が理解できる	1) 症状と病態生理	(1) 意識障害、テタニー、頭痛、麻痺、高熱、循環器症状、消化器症状、局所症状、やせ、肥満、皮膚異常、神経･筋症状、眼症状、甲状腺腫大、無月経、浮腫	講義
		2) 診察と診断の流れ	(1) 内分泌疾患と代謝疾患の検査	

2	試験	3) 疾患別病態生理と治療	(1) 下垂体・副腎・甲状腺・副甲状腺の疾患 (2) 代謝疾患 - 糖尿病 (3) 体液調節の疾患(水・電解質の異常、酸塩基平衡の異常)	
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　病態生理学　疾病の成り立ちと回復の促進②　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　消化器　成人看護学⑤　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　歯・口腔　成人看護学⑮　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　内分泌・代謝　成人看護学⑥　医学書院			
参考文献	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①　医学書院 からだの地図帳　講談社 病気の地図帳　講談社			
評価方法	筆記試験			

授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	疾病と治療Ⅲ	担当講師	福森豊和・田村邦彦 元津康彦
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい

刺激情報が求心路を経て中枢で処理され、遠心路によって運動器系に伝えられたら、人は動くことができる。情報処理をする脳で、情報を伝える神経で、体を動かす運動器で障害が生じたら、全身にどのような影響が生じるのか。症状出現から疾病の回復まで看護が連続して行われるために必要な、神経機能、運動機能にかかわる疾病と診断・治療について学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
10	神経機能 1. 神経障害で起こる主な症状と病態生理が理解できる	1) 症状と病態生理	(1) 意識障害・高次脳機能障害・運動機能障害・感覚機能障害・自律性のある機能障害(対光反射の障害と瞳孔不動・嚥下障害・排泄障害・呼吸障害)・頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア・髄膜刺激症状・頭痛	講義
	2. 検査・診断・治療が理解できる	2) 診察と診断の流れ	(1) 身体所見と検査の種類	講義
		3) 内科的治療と外科的治療	(1) 治療と処置 内科的治療　外科的治療	
	3. 中枢神経系の疾病と診断・治療が理解できる	4) 中枢神経系の病態生理と治療	(1) 脳血管障害（脳内出血、くも膜下出血、脳梗塞、もやもや病） (2) 頭蓋内圧亢進症 (3) 変性疾患（パーキンソン病)、筋萎縮性側策硬化症（ALS） (4) 脱髄疾患（多発性硬化症） (5) 認知症（アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症） (6) 感染症（脳炎、髄膜炎） (7) 頭部外傷 (8) 脊髄損傷 (9) 機能性疾患（てんかん） (10)腫瘍（脳腫瘍）	講義
6	4. 末梢神経系の疾病と診断・治療が理解できる	5) 末梢神経系の病態生理と治療	(1) ギランバレー症候群 (2) 圧迫性神経障害 (3) 顔面神経麻痺 (4) 自律神経失調症	講義
12	運動機能 5. 筋肉・神経筋接合部の疾病と診断と治療が理解できる	6) 筋肉・神経筋接合部の疾病と診断・治療	(1) 筋ジストロフィー (2) 重症筋無力症	講義

2	6. 骨・関節の疾病と診断・治療が理解できる 試験	1) 症状と病態生理 2) 診察と診断の流れ 3) 治療と処置 4)病態生理と治療	(1) 疼痛・形態の異常（奇形と変形）関節運動の異常（関節拘縮・強直・動揺関節）神経障害（運動麻痺・感覚障害）異常歩行 (1) 身体所見と検査の種類 (1) 治療と処置 保存療法、理学療法、手術療法、技師と装具 (1) 骨折・脱臼・捻挫 (2) 骨粗鬆症 (3) 腫瘍（骨肉腫） (4) 変形性関節症 (5) 腰痛症（椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症） (6) 脊髄の疾患(脊椎症性脊髄症・OPLL、二分脊椎症) (7) 炎症性疾患（骨髄炎・関節炎）	講義
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　病態生理学　疾病の成り立ちと回復の促進②　医学書院 系統看護学講座　専門分野　脳・神経　成人看護学⑦　医学書院 系統看護学講座　専門分野　運動器　成人看護学⑩　医学書院			
参考文献	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①　医学書院 からだの地図帳　講談社 病気の地図帳　講談社			
評価方法	筆記試験			

授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	疾病と治療Ⅳ	担当講師	黒田達実・森松孝亘 谷本俊次・小出 隆 中島雅彦・西田勝浩
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい

人には生命維持のため異物を認証し、記憶し、排除するしくみが備わっている。また感覚器を通して外部からの刺激（情報）を取り入れることで身を守り、情報処理して生活している。そうして個体の健康を守りながら次世代へ子孫を残すという役割を果たすために女性特有の器官がある。

これら免疫系、感覚器系、女性生殖器に疾病を生じたら身体にどのように影響するのか。本科目では、症状出現から疾病の回復までに必要な、アレルギー・自己免疫、感覚器系(眼・耳鼻・皮膚)、女性生殖器(子宮・卵巣・乳房)にかかわる疾病と治療について学ぶことをねらいとする。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
6	1. アレルギー性病・自己免疫疾病と治療が理解できる	1) 免疫の仕組みとアレルギー	(1) 免疫の仕組みとアレルギー (2) 身体所見と検査の種類、診断 (3) 気管支喘息、ｱﾄﾋﾟｰ・ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎、薬物のｱﾚﾙｷﾞｰ、ｱﾅﾌｨﾗｷｼｰ、蕁麻疹、接触性皮膚炎、食物アレルギー	講義
		2) 自己免疫疾患	(1) 自己免疫疾患とその機序 (2) 身体所見と検査の種類、診断 (3) 膠原病(関節ﾘｳﾏﾁ、全身性ｴﾘﾃﾏﾄｰﾃﾞｽ)、膠原病類似疾患(ｼｪｰｸﾞﾚﾝ症候群)、敗血症　HIV	
4	2. 感覚器系の眼の疾病と治療が理解できる	1) 症状と病態生理	(1) 視力障害、視野異常、色覚異常、夜盲、眼精疲労、複視、飛蚊症、変視症、小視症、虹視症、充血、流涙、眼脂、羞明、異物感、掻痒感、眼痛、眼球突出	講義
		2) 診察と診断の流れ	(1)症状があるときの問診と身体所見と検査の種類 (2) 検査結果と主な治療 ①緑内障、②結膜炎 ③糖尿病性網膜症、④網膜剥離	
4	3. 感覚器系の耳鼻咽喉の疾病と治療が理解できる	1) 症状と病態生理	(1) 耳にあらわれる症状(難聴、耳鳴、顔面神経麻痺他)鼻にあらわれる症状(鼻閉、鼻出血他)咽頭にあらわれる症状(咽頭痛他)、喉頭にあらわれる症状(嗄声他)	講義
		2) 診察と診断の流れ	(1) 症状があるときの問診と身体所見と　検査の種類	
		3) 疾患別病態生理と治療	(1) 検査結果主な治療 ①中耳炎②メニエール病 ③顔面神経麻痺④鼻出血・副鼻腔炎 ⑤咽頭声帯ポリープ、咽頭がん	

4	4. 感覚器系の皮膚の疾病と治療が理解できる	1) 診察と診断の流れ 2) 疾患別病態生理と治療	(1) 症状があるときの問診と身体所見と検査の種類 (1)検査結果と主な治療 ①湿疹、皮蕁麻疹粘膜皮膚眼症候群 ②感染症(蜂窩織炎③ハンセン病 ④真菌感染症、帯状疱疹 ⑤熱傷・凍傷 ⑥皮膚の腫瘍(扁平上皮がん、悪性黒色腫)	講義
6	5. 女性生殖器の疾病と治療が理解できる	1) 症状と病態生理 2) 診察と診断の流れ 3) 婦人科の疾患の治療	(1) 出血、帯下、疼痛、発熱、下腹部膨満、腫瘤感、外陰部掻痒感、排尿障害、自律神経症状、不定愁訴 (1) 症状があるときの問診と身体所見と検査の種類 (1) 検査結果と主な治療 ①外陰・膣の疾患(膣炎) ②子宮の疾患（子宮筋腫・子宮内膜症・子宮がん） ③卵巣の疾患(卵巣がん) ④月経異常、不妊症、不育症 ⑤更年期障害	講義
4	6. 乳腺の疾病と治療が理解できる	1) 乳癌	(1) 乳癌の診断、自己検診 (2) 乳癌の病態と治療(手術療法と補助療法) (3) 乳癌の術後経過と再発	講義
2	試験			
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　病理学　疾病の成り立ちと回復の促進①　医学書院 系統看護学講座　専門分野　アレルギー　膠原病　感染症　成人看護学⑪　医学書院 系統看護学講座　専門分野　皮膚　成人看護学⑫　医学書院 系統看護学講座　専門分野　眼　成人看護学⑬　医学書院 系統看護学講座　専門分野　耳鼻咽喉　成人看護学⑭　医学書院 系統看護学講座　専門分野　女性生殖器　成人看護学⑨　医学書院			
参考文献	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①　医学書院 からだの地図帳　講談社 病気の地図帳　講談社			
評価方法	筆記試験			

授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	微生物と感染症	担当講師	濟　昭道
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい

本科目では、まず人間と共存する微生物の正体と役割を知り、臨床微生物と感染症の基本的知識を学ぶ。そして、感染源としての微生物、感染や免疫反応に関する疾患と治療・臨床検査全般について、さらに感染症の世界的な動向についても理解できることをねらう。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 微生物と微生物学について理解できる	1) 微生物と人間	(1) 微生物の性質 常在微生物 発酵食品とﾌﾟﾛﾊﾞｲｵﾃｨｸｽ (2) 環境と微生物	講義
		2) 微生物学とは	(1) 微生物学の対象と目的･歩み 微生物の発見とﾊﾟｽﾂｰﾙ､ｺｯﾎ 予防接種の起こり	
2	2. 微生物の種類と特徴が理解できる	1) 細菌の性質	(1) 細菌の形態と特徴 (2) 培養環境と栄養 (3) 細菌の遺伝、分類、常在細菌叢	講義
		2) 真菌・原虫・ｳｲﾙｽの性質	(1) 真菌・原虫の性質、形態 (2) ｳｨﾙｽの性質 - 特徴･構造と機能･増殖･分類	
4	3. 感染とその防御について理解できる	1) 感染と感染症	(1) 感染症とは何か (2) 感染の成立から発症・治癒まで (3) 感染源・感染経路（8 章）	講義
		2) 微生物学的検査	(1) 感染症の検査と診断（10 章） 形態学的、遺伝学的、病原体抗原検査、抗体検査 (2) 迅速検査、耐性菌の検査 (3) 各種病原体と検査	
		3) 生体防御機構	(1) 自然免疫・獲得免疫のしくみ (2) 感染の徴候と症状	
		4) 滅菌と消毒	(1) ﾊﾞｲｵﾊｻﾞｰﾄﾞとﾊﾞｲｵｾｰﾌﾃｨ滅菌 (2) 滅菌・消毒の意義と定義 (3) 滅菌法、消毒	
6	4. 感染症の治療と現状と対策について理解できる	1) 感染症の治療	(1) 化学療法の基礎 (2) 化学療法薬 抗菌薬、抗ウイルス薬、他 (3) 薬剤耐性、副作用、薬剤感受性	講義
		2) 感染症の現状と対策	(1) 感染症の変遷 (2) 感染症の現状と問題点 (3) 感染症への対策 (4) ﾜｸﾁﾝと予防接種	

14 2	5．主な病原微生物について理解できる 試験	1) 病原細菌と細菌感染症 2) 病原真菌と真菌感染症 3) 病原原虫と病原感染症 4) 病原ウイルスとウイルス感染症	(1) グラム陽性球菌 ブドウ球菌、ﾚﾝｻ球菌　他 (2) グラム陰性通性桿菌 腸内細菌科、ビブリオ属　他 (1) 深在性真菌症 (1) 根足虫類、鞭毛虫類　他 (1) DNA ウイルス (2) アデノウィルス、パピローマウイルス、RNA ウイルス他 (3) ウイルスの臨床的分類 (4) 主要腫瘍ウイルス	講義
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　微生物学　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　アレルギー　膠原病　感染症　成人看護学⑪　医学書院			
参考文献	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①　医学書院			
評価方法	筆記試験			

授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	薬理学	担当講師	岡本　大輔
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間

科目設定のねらい
　薬物療法は今日の医療現場では日常的に用いられ、疾病の回復に必要かつ重要な治療法である。本科目では薬物療法が効果的にかつ安全に行えるよう、薬理学の基礎知識を学び、看護を考える基礎とする。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 薬物療法の意義と目的が理解できる	1) 薬物による病気の治療	(1) 薬理学とは (2) 薬物療法の意義と目的 (3) 薬物療法における看護師の役割 ・誤薬の防止 ・治療効果の確認 ・副作用・有害作用の発見と防止 ・服薬に関する患者指導 ・患者とその家族への補足的説明	講義
4	2. 発達段階による薬物動態の特徴が理解できる	1) 薬理作用の基本 2) 薬物動態と影響を与える因子	(1) 薬理作用と作用機序 (2) 薬物使用の有益性と危険性 (3) 薬と法律 医薬品に関する法律 毒薬・劇薬、麻薬・向精神薬・覚せい剤 新薬の開発とﾍﾙｼﾝｷ宣言 医薬品情報の入手 看護業務に必要な薬の知識 ・薬の単位、処方せん、添付文書	講義
6	3. 薬物治療による生体の反応が理解できる	1) 主な薬物の作用の機序と副作用（有害事象）	(1) 薬物の投与経路、薬物の体内動態代謝と排泄、薬物血中濃度 (2) 薬効の個人差に影響する因子 ・年齢、性、妊娠、遺伝子	講義
2	4. 医薬品の安全対策が理解できる	1) 薬剤混合の可否 2) 禁忌薬 3) 管理の方法と開発	(1)薬物相互作用 ・吸収、分布、代謝、排泄に影響する薬物 (1) 薬力学的相互作用 ・ハイリスク薬、ハイアラート薬 (1) 患者の素因や病態上禁忌となる薬剤	
1	試験			

テキスト	系統看護学講座　専門基礎　薬理学　疾病のなりたちと回復の促進③　医学書院
参考文献	系統看護学講座　別巻　臨床薬理学　医学書院 系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践②　医療安全　医学書院 任　和子編集　根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　第 2 版　医学書院
評価方法	筆記試験

授業概要

分　野	専門基礎分野	科目名	看護につながる疾病論	担当講師	杉垣　ひとみ
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間

科目設定のねらい

健康障害によって生じる症候に関心をもち、その予防、軽減に努めことは、健康回復に関わる看護の役割である。そのため、健康障害により生じる症候に着目して、発症の原因やメカニズムの理解などにより、症候の予防や苦痛の緩和につながる看護を自ら考えるための基礎的知識が必要となる。これは看護師の行う臨床判断の基礎となるため、これまで学習した人体と構造の機能、疾病と治療から患者の健康問題を的確にとらえて、適切な観察とアセスメントを行うためには重要な知識となる。基礎看護学へ繋ぐ科目として、これまで学習してきた知識の活用方法を本科目で学習する。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
24 （4×6）	1.主要な症候の理解のために解剖生理学などの基礎知識を活用することができる 2.症候の原因や症状、発症のメカニズムを理解することができる	1)咳嗽、喀痰 （呼吸器系） 2)浮腫 （循環器系） 3)乏尿・無尿・頻尿多尿 （腎・泌尿器系） 4)肥満・やせ （消化器、内分泌系） 5)意識障害 （脳・神経系） 6)感覚障害 （運動器・感覚器系）	・症候の定義 ・メカニズム ・種類と特性 ・随伴症状 ・成り行き ・検査所見 ・治療、処置 ＊病態関連図作成	講義 演習
6	3.単元目標2の知識が、症候の発症予防や症状の緩和をめざす看護につながることが理解できる	7)事例演習 看護への活用方法の理解	事例：糖尿病 ・準備確認テスト（RAT）による知識の確認 ・症候の原因、症状、発症のメカニズム ・「疾患」「症候」「治療・処置」を関連づけて、演習問題に取り組む ・症候の予防や緩和を目指す看護への繋がりを理解する	TBL

テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①　医学書院 系統看護学講座　専門基礎分野　病理学　疾病の成り立ちと回復の促進①　医学書院 系統看護学講座　専門基礎分野　病態生理学　疾病の成り立ちと回復の促進②　医学書院 菱沼典子　第4版看護形態機能学　生活行動からみるからだ　日本看護協会出版 系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　医学書院 高木永子監修　看護過程に沿った対象看護　第5版　学研
参考文献	小寺豊彦著　楽しく学ぶ　看護につながる解剖生理学　改訂版　昭林社
評価方法	出席時間、ポストテスト、課題・授業の取り組み状況

授 業 概 要

分　野	専門基礎分野	科目名	医療概論	担当講師	濟　昭道
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間

科目設定のねらい

看護はいつの時代にあってもそれ自体で進歩してきたが、大きな社会の動きに影響を受けてきていることも事実である。特に経済や科学技術、保健医療の進歩・発展に伴う影響は大きい。

本科目は保健医療を取り巻く社会の動向を見据えつつ、医科学や医療技術が進んでもなお人の心を尊重し、至福に貢献できる医療のあり方を問い、自らが志す保健医療従事者としてのあるべき姿を考えて精進する動機づけとする。さらに、生殖補助医療や脳死・臓器移植など現代医療がかかえる問題について、職業倫理にとどまらない生命の尊厳や生命倫理、医の倫理、患者の権利についての考え方について学び、将来にわたり望ましい医療・看護のあり方や社会における役割と課題が理解できることをねらう。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 医学・医療のあゆみと現代医療の本質が理解できる	1) 医療とは 2) 現代医療の本質 3) 医学の変遷	(1) 医療と医学 (1)現代医療の本質 ① 医療の本質と現代医療 ② 現代医療のあるべき姿 (1) 医学の発達と動向 ① 近代医学の発展現代医療の基盤 ② 今後の医学・医療の方向	講義
2	2. わが国の医療供給体制とそこで働く人々が理解できる	1) わが国の医療供給体制と医療関係者 2) 医療の実践	(1) わが国の医療供給体制と医療職者 ① 医療供給の現状と整備の経過 ② 医療関係者の現状 (1) 医療の実践 ① 疾病の診断と治療 ② 医療における医師 - 患者関係 ③ 医療における医師の義務 ④ 医療における看護師の役割	講義
2	3. 医療の進歩に伴う医療倫理の変遷が理解できる	1) 医療の進歩と倫理 2) 医の倫理の考え方	(1) 医療の進歩と医の倫理 ① 倫理の歴史的あゆみ ② 現代医療における倫理 (1) 職業倫理 ① 生命の尊厳と生命倫理 ② 先端医療と倫理問題	講義
2	4. 患者の権利とインフォームドコンセントの必要性が理解できる	1) 医療における患者の権利	(1) 医療における患者の権利 ① 患者の権利尊重の医療背景 ② 患者の権利主張とその承認 ③ 患者の自己決定権とインフォームドコンセント	講義

2	5. 病状告知と医師の責務が理解できる	1) 病状告知と医師の責務	(1) 病状告知 ① 死の告知について ② 癌告知に対する文化的背景 ③ 致死を知った患者の反応 ④ 死の告知と受容、医師の責務	講義
2	6. 脳死と臓器移植の現状から倫理について考えることができる	1) 脳死と臓器移植に伴う倫理的問題	(1) 脳死と臓器移植 ①脳死－新しい死の概念 ②「脳死は人の死か」の議論 ③脳死・臓器移植に関する法的整備と倫理的問題	講義
2	7. さまざまな死のあり方が理解でき、死と医療について考えることができる	1) 死と医療	(1) 死と生命保持、安楽死、死を共有する医療 ① 臨死患者 ② 死の解釈、脳の死、死の準備 ③ 孤独な死、延命治療の問題点 ④ 安楽死 ⑤ 尊厳死 ⑥ ホスピスにおける治療	講義
1	試験			
テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度①　医療概論　医学書院			
参考文献	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度④　看護関係法令　医学書院 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学①　看護学概論　医学書院 看護学基礎テキスト　第３巻　社会の中の看護　日本看護協会出版会 田畑邦治他編　哲学－看護と人間に向かう哲学　ヌーヴェル・ヒロカワ			
評価方法	筆記試験			